

132 E 2
(132 E 232)
(132 E 231)

流動体或は半流動体用容器

実 願 昭 38-36483
出 願 日 昭 38. 5. 17
考 案 者 出願人に同じ
出 願 人 大原英太郎
大阪市旭区新森小路中1の182
同 磯島晴治
西宮市浜甲子園3の19
代 理 人 弁理士 鈴木武夫
(出願人において、実施許諾の用意がある)

図面の簡単な説明

図面は本案流動体あるいは半流動体用容器の中央縦断正面図である。

考案の詳細な説明

本案は従来の流動体あるいは半流動体用の容器を改良したものに係り、内容物の完全な排出が出来、空気との接触面を少なくして内容物の化学変化を防止し、いずれの方向に向けても内容物を排出し得るごとくした点を特徴とするものである。

次に本案容器の一実施例を図面に基き説明する。多少柔軟性を有する合成樹脂製の外容器aに空気孔1およびこれを開閉する弁2を設け、これが内部に薄膜製の容器bを内蔵し、頭部に孔3を穿設し、かつ多数の孔4を穿設した中空の防塞体5を前記孔3に連通する状態で固定した蓋体cを被冠する。

本考案品は上記のごとくして構成するものであるゆえ、内容物を孔3より排出するには外容器aの側面または底面を押圧すれば足りる。

しかして押圧をやめると外容器aは多少柔軟性を有する例えばポリエチレン樹脂、塩化ビニール樹脂等により構成されておる関係上、元の形状に戻ろうとする力が働く、この時粘性のある内容物が孔3を通過する時の抵抗より、空気孔1を通過する空気の抵抗が遙かに少であるため、外容器a

と容器bとの間に空気が入り、外容器aは空気を内蔵した状態で、かつ容器bは多少復元した状態で原型に復す。

従つて次に押圧力を加えれば内容物は直ちに押し出される。

しかして本案品が放置されておる間は外容器aと容器b間に介在する空気圧と弁2の作用により容器内に空気が侵入することがない。

すなわち内容物が空気に接する面は常に孔3の断面積であるゆえ、空気に基因する化学変化は極く僅少である。

しかして本案品において容器bを例えば合成樹脂等の薄膜製とするのは吸引した僅かな量の空気の圧力によつても、常に容器bの壁が内容物と密接し容器b内に空気の侵入するのを防止するためであり、弁2を設けるのは外容器aが原形に復するに当り空気を吸入し、外容器aの押圧に当つては空気の漏洩を防止するためである。

また、蓋体cに多数の孔4を穿設した中空の防塞体5を固定するのは孔3の下部附近で内容物がその重量と粘性と空気圧とにより詰るのを防止するためであり、この防塞体5を設ける時は孔4より内容物は孔3に到り、容易に排出し得ると共に容器bの下部の内容物をも簡単に排出し得る。

しかしてこの防塞体5は本案品においては蓋体cに固定したが、これは上述のごとき構成物あるいはある程度の長さを有するスプリング等を容器b内にただ単に挿入しておくのみでも均等の効果を奏し得る。

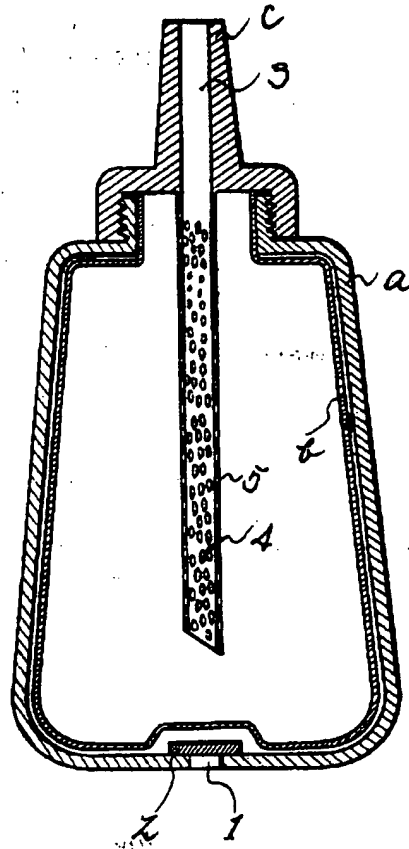
叙上のごとく本案容器は顕著な効果を奏する考案品である。

実用新案登録請求の範囲

多少柔軟性を有する合成樹脂製の外容器aに空気孔1およびこれを開閉する弁2を設け、これが内部に薄膜製の容器bを内蔵し、頭部に孔3を穿設し、かつ多数の孔4を穿設した中空の防塞体5を、前記孔3に連通する状態で固定した蓋体cを被冠して成る流動体あるいは半流動体用容器。

(2)

実公 昭 40-1163



BEST AVAILABLE COPY